

令和4年12月23日 定時制全校集会校長あいさつ

みなさん、今年もあと僅かとなりました。みなさんにとって2022年はどんな年だったでしょうか。新型コロナウイルス感染症による規制が多少なりとも緩和され、体育祭や文化祭などの行事が実施できたことで、昨年よりも充実した年になっていれればいいです。

さて、この一年を振り返ってみると、ロシアのウクライナ侵攻や北朝鮮の度重なる弾道ミサイルの発射、未だ収束が見えない新型コロナウイルス感染症や物価の高騰など、暗いニュースが多く、また、7月には、安倍元首相が銃撃され死亡するというショッキングな事件も起きました。最近では、保育士による度重なる児童虐待のニュースが報じられ、また、来週は強烈な寒波の襲来が予想されています。

私はこのような暗いニュースを目にするたびに、「楽しい話題だけを集めたニュース番組があればいいのに」と思っていました。ある日、ツイッターで「ほっこりするニュース」だけを取り上げる、「こういうニュースだけ見ていたい bot」というアカウントに巡り会いました。

アカウントの管理者は、普段は会社員として働いているそうですが、今年の夏ごろ、緊急事態宣言が続いて日本がギスギスしていたときに、疲れた心を癒してくれるニュースを集めて発信したら面白いのではと思って始めたそうです。

今日は、そのアカウントに掲載された2つのトピックスを紹介します。

一つ目は、米カリフォルニア州ロサンゼルスに住む6歳の女の子、マデリンちゃんのお話しです。マデリンちゃんは、額の中央に角（つ）が生えた伝説の生き物、ユニコーンが大好きで、ある日お母さんに「ユニコーンが欲しい」とおねだりしたところ、お母さんは「家で飼うには政府の許可が必要かも。」と言いました。そこでマデリンちゃんは、ロサンゼルス郡動物管理局に、「もしユニコーンを見つけたら、裏庭で飼ってもいいですか？返事を下さい」という手紙を送りました。すると管理局長は、「ユニコーンの角を月に一度は柔らかい布で磨くこと、週に一度は大好きなスイカを食べさせること、日光・月光・虹を定期的に浴びせること」を条件に、「事前承認済みユニコーン許可証」を、ユニコーンのぬいぐるみと一緒にマデリンちゃんに送ったのです。動物管理局に20年以上勤めている局長は、神話上の生き物の許可申請を受けたのは今回が初めてだったそうですが、決して少女の夢を壊すことなく、真摯に向き合った対応が実に「ほっこり」だと思います。

二つ目は、ある日本国内便での機長のアナウンスのお話しです。今年10月6日、名古屋上空を飛ぶスカイマーク国内便で、機長が目的地までの飛行ルートを一通り説明した後、「私事ですが」といって話し始めたのは、14年前のある少年との出会いでした。「14年前に会社に“どうしたらパイロットになれますか？”という手紙が少年から届き、私が返事を書きました。その縁でずっと手紙やメールでやり取りをしていましたが、その少年がついに航空大学校を卒業してパイロットになり、今、この便に乗客として搭乗しています。これからは同じ職業の仲間です。」とのアナウンスに、機内で拍手喝さいが起きたそうです。さらに

機長は、「一日のお仕事終わりの後にご搭乗いただいたお客様に、お疲れの中、個人的なお話で貴重なお時間を頂戴したことを申し訳なく思っています。」とお詫びを述べ、「彼はスタートラインには立ちましたが、これから待ち受けている厳しい訓練期間中、自信をなくしたり、落ち込んだりすることが必ずあると思います。そんな時こそ、今回の157便でたくさんのお客様からいただいた拍手を思い出し、一日も早く副操縦士として大空を羽ばたいてほしいと思っています。」と言葉を結びました。

どうでしょう、みなさんも少し「ほっこり」できたでしょうか。ネガティブな思考から脱却し、身の回りの小さな「ほっこり」をたくさん集めて、心豊かな優しい大人へと成長していきましょう。そして、いつかみなさんも「ほっこり」したニュースの主演になれるといいですね。

それではみなさん、よいお年をお迎えください。年明け1月11日（水）に元気に会いましょう。